

登山 月報

JMSCA 登山月報 第659号 令和6年2月15日発行



「二人の二子山」 写真提供：(一社) 埼玉県山岳・スポーツクライミング協会(深谷山岳会) 設楽和男



No.659

2024年 新春懇談会	2
2023年度山岳レスキュー講習会(積雪期・東部地区)報告	3
第14回全国高等学校スポーツクライミング選手権大会(HSC2023)開催レポート	5
Enjoy Climbing	6
京都府山岳連盟のSDGsな活動	8
令和5年度臨時総会報告	9
寄贈図書	12
JMSCA、表紙のことば	13

2024年 新春懇談会

日本山岳・スポーツライミング協会の2024新春懇談会が1月13日(土)に午前中は表彰式、顧問参与会を挟んで午後は懇談会が東京：アルカディア市ヶ谷で開催されました。表彰式は丸会長の新年の挨拶に続き日本パラクライミング協会小林浩一郎共同代表からも挨拶があり、功労のあった方々への感謝の言葉が述べられ古賀登山部長、町田スポーツライミング部長から活動の総括報告がありました。

日頃お世話になっている、多くの自治体、スポンサー関係の皆様にもお越しいただき、パリオリンピックに向けて多くの励ましをいただきました。

山岳功労表彰

JMSCAや各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が行われました。

■加盟団体推薦表彰

- 四戸 義継(青森県山岳連盟)
- 石澤 好文(栃木県山岳・スポーツライミング連盟)
- 田村 宣紀(長野県山岳協会)
- 森山 議雄(長野県山岳協会)
- 松崎 文彦(長崎県山岳・スポーツライミング連盟)
- 西本 安幸(熊本県山岳・スポーツライミング連盟)

■指導委員会推薦表彰

- 平子 吉政(福島県山岳・スポーツライミング連盟)
- 上原 昭則(山梨県山岳連盟)
- 寺崎 良夫(福岡県山岳・スポーツライミング連盟)



スポーツライミング優秀選手表彰

2023シーズンに日本代表としての活躍が特に顕著だった選手に贈られる優秀選手賞に選ばれたのは、

- 安楽 宙斗(千葉県立八千代高等学校)
- 伊藤ふたば(デンソー岩手)
- 大政 涼(松山大学)
- 榎崎 智亜(無所属)
- 野中 生萌(無所属)

- 本間 大晴(無所属)
- 森 秋彩(茨城県山岳連盟)
- 小田 菜摘(大阪府山岳連盟)
- 通谷 律(佐賀県山岳・スポーツライミング連盟)
- 関口 準太(栃木県山岳・スポーツライミング連盟)
- 濱田 琉誠(神奈川県山岳連盟)
- 林 かりん(鳥取県山岳・スポーツライミング協会)
- 村越 佳歩(茨城県山岳連盟)



ますますのご活躍期待しております。

表彰式後には顧問参与会が開催され、歴代会長他20数名の方々にご出席いただき財政問題について貴重なご意見を頂き理事が一致団結して、立て直しに当たるよう励まされました。

懇談会では、蛭田副会長の開会の言葉の後、丸会長が主催者を代表して挨拶を行い、ご来賓を代表してネパール駐日特命全権大使ドゥルガバハドゥールスペディ博士様、米山国立登山研修所所長様よりご挨拶をいただき、顧問5人による乾杯により懇談が開始されました。



ドゥルガバハドゥールスペディ博士



米山国立登山研修所所長



顧問の皆様

2023年度山岳レスキュー講習会（積雪期・東部地区）報告

遭難対策委員長 服巻辰則



2024年1月19日（金）～21日（日）に群馬県水上町の土合山の家にて、山岳レスキュー講習会（積雪期・東部地区）を開催した。記録的な暖冬傾向で、講習開催場所の積雪量と天気を気にしての開催となった。積雪量は直前の降雪で、50～70cmほどの積雪量となったが、講習にはギリギリというところであった。最終日には土砂降りの雨となり、冬山の講習としては異例の開催となったが、各クラスとも雨の中で実習をこなした。

講習会参加者数は、クラス1（受講生14名）、クラス2（受講生13名）、クラス3（4名）、講師・スタッフ等（16名）の計47名となった。

講習のクラス編成については全体構成を昨年から引き続き、雪崩による遭難の防止から捜索救助、ファーストエイド、搬送までを一貫して学べる内容とした。

■クラス1は、特定非営利法人日本雪崩ネットワークと提携し、雪崩ネットワークのAvSAR基礎（コース雪崩捜索救助基礎：雪崩ビーコン捜索の基礎）とベーシックセーフティキャンプの両方を一度に学べる登山者向けのプログラムとした。雪崩の基礎知識を学び雪崩被害に遭わないための学習に加え、雪崩ビーコンを用いた雪崩事故の捜索救助の基礎を学ぶコースとなっていた。講師は、雪崩ネットワークの理事である出川あずさ氏を迎え、雪崩ネットワークの雪崩業務従事者レベル1の資格保持者である委員と共に講師を担当した。

■クラス2は、雪崩事故発生直後の捜索救助とファーストエイドを主に取り扱い、登山医科学委員会の上小牧医師を迎えた低体温症・凍傷の講義を含み、雪崩埋没者の雪崩ビーコンを用いた捜索・救助、被災者への対応、安全地帯への搬送方法等を講習した。

■クラス3は、一歩進んで傾斜地でのロープを使った搬送を主要なテーマとし、ビーコンによる捜索から掘り出し、梱包、傾斜地の搬送を講習した。講師陣には山岳看護師も含まれ、傷病者のケアも重視した対応を学んだ。

夜も懇親会場で、講師を囲み質問攻めする受講生もあり、熱心な学習に取り組んでいた。

*

感想（クラス1・東京都 秋永名美）

雪山を初めてまだ経験が浅いが、積雪期の行動マネジメントについて体系的に学びたいと思い参加した。クラス1では、雪崩が発生する以前のことについて学び、遭難対策のためにはまずそれがもっとも重要な知識だと聞いていた。実際その通りで、雪崩研究の第一人者である日本雪崩ネットワーク代表の出川さんや、JMSCA遭難対策委員長の服巻さんが主任講師をつとめ、3日間直接教えてくださったのはとても貴重な機会である。雪崩リスクを捉えるための多数の専門的な知識の共有に加え、初日からフィールドに出て繰り返し実践シミュレーションも行った。不確定要素が多数あるなかでの計



画、リーダーシップやチームワークについても学ぶことができ、これらは積雪期の技術や経験の大小に限らず、組織登山をする誰もが身につけるべき重要な考え方だと思う。また、全国区の開催なので、他県の参加者とも親睦を深めることができた。救助隊やバックカントリーなど山への関わり方はそれぞれ異なれど、積雪期のリスクを捉えレスキューの知識を身につけようという使命感を共有できた。3日間で覚えきえることは不可能なほど充実した内容だったので、日頃の山行のなかで実践していき、仲間にも共有していきたい。

感想(クラス2・東京都 谷口悠子)

3日間の参加を通じて、当講習会は雪山というフィールドに入る人たち全員に是非とも受講を勧めたい、非常に価値の高いものだと感じました。

第一に、豊富な雪山とレスキューの経験、さらにコーチング技術を備えた講師陣が、とても丁寧に指導に当たってくれるという点です。柔和で話しかけやすい雰囲気がありながら、デモンストレーションでは真剣な目つきと雰囲気になりと変わり「最高のお手本」を見せてくださいました。

第二に、プログラムが学習効率の高い構成になっているという点です。各セッションが知識のおさらいから始まり、講師によるデモンストレーション、講習生による実践、講師によるフィードバックという流れで進行する構成は、インプットとアウトプットがベストに配分され、「頭と体の両方で覚える」ことができました。また各過程において講師が都度受講生に質問の有無を確認してくれたことで、疑問に思ったことをその場で発信し、現場で消化することができました。

最後に、スポーツ振興くじTOTOの助成により、非常にリーズナブルな金額で講習を受けられるという点です。周囲には「雪山は何かとお金がかかる」と言って、講習会への参加を見送り自己流で雪山を始める人や、ビーコンなどの装備も持たずに雪山に入ってくる人がいます。そんな人にも、今回の講習費は誘いやすい金額設定だと思いました。



講習参加を終えた今は、達成感よりも「また参加したい」という気持ちを強く感じています。それは、雪崩対策の講習は一度受講して終わりではなく、何度も繰り返し練習することで初めて、実践で役にたつ力が身につくと実感したためです。レスキューだけでなく、基礎知識も含め何度も繰り返し学習を深めることで、より雪山を楽しめるようになれると思いました。これから今シーズン中にも経験を重ね、来年はまた新たな発見と学びを得られるよう、努めていきたいと考えています。

感想(クラス3・福島県 小野岳陽)

私はバックカントリーの経験もあり、バイスタンダーとして雪崩現場に遭遇する可能性があること、また本職である山岳救助にも活かせると思うクラス3の講習会を受講しました。

講習会は3日間の日程で行われ、部分訓練では座学から実技の流れで手技を確認し、最終日には捜索から掘出し、パッケージング、搬送までのシミュレーション訓練を実施しました。反省点も多々ありましたが、一連の流れを実施することで、大変貴重な経験を積むことができました。また、限られた資機材と人員で救助活動を行う難しさも痛感しました。チーム内での役割決めや、情報共有、各々が習得している知識及び技術の応用を効かせることが重要であると改めて実感しました。

講師の先生は、わかりやすい説明と丁寧な指導で、受講者全員が理解できるように配慮されていました。また、実習の際には、受講者の疑問や質問に親切に答えていただき、とても勉強になりました。

この講習会で学んだことを、今後の活動に活かすとともに、更なるレベルアップのため自己研鑽に努めていたいと思います。3日間ありがとうございました。



なお、本事業は、日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成を受けて開催された。



第14回全国高等学校スポーツクライミング選手権大会 (HSC2023) 開催レポート

JMSCA 副競技委員長 藤枝隆介

会場：加須市民体育館

期日：予選 2023年12月23日(土)

決勝 2023年12月24日(日)

種目：リード

選手：43都道府県 男子107名、女子93名

■大会実行委員長 松尾浩志

(全国高等学校体育連盟登山専門部事務局スポーツクライミング担当)

今回の大会は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより感染症対策が大幅に緩和され、昨年度までの大会に比べ制限が少なくなり、大勢の観客をお迎えし、開会식을4年ぶりに実施して開催することができました。埼玉県知事 大野 元裕 様をお迎えし、開会式でのご挨拶、その後競技を観戦していただき、生徒たちのモチベーションも一層上がったことと思われま。開催にあたりご尽力いただいた開催地の皆さまに御礼申し上げます。

一方、感染症対策による制限が緩和されたとはいえ、事前の出場辞退、決勝当日に体調不良によりDNSになる選手もあり、今後も一層の健康管理の必要を強く感じました。

競技は以前の活況を取り戻し、コロナ禍前の形式で実施することができました。経費削減が求められ、関係者の皆さまには大きな負担をおかけし、選手にもご不便をおかけしたことが多々あり心苦しく思いましたが皆様のご理解とご協力で大過なく終了することができました。観客の制限がなくなったことでご家族の応援もあり、選手の頑張りだけでなく、会場全体が盛り上がった大会に戻ったように感じました。

競技では全国大会で活躍した選手も大勢出場し、レベルの高い大会であったと感じました。現在日本の高校生クライマーのレベルは世界的にも通用する選手もあり、ワールドカップで上位入賞する選手も多く参加しておりました。その中で男子は直前のIFSCクライミングアジア選手権のリード3位、ボルダー2位の藏敷慎人選手が唯一の完登で優勝、女子は今年のこの大会の覇者 永嶋美智華選手が二連覇を飾りました。

今後も日本の高校生クライマーの活躍が期待できる内容であったと思います。

選手の競技力だけでなく、観戦していても見ごたえのあるルートを設定いただいたルートセッターの活躍も見逃せないところでした。参加者の競技力を判断し、

藏敷慎人

「ボルダーのようにテンポよく登ることを意識した。」と本人が言っていたように、リード種目としては珍しいチョークバッグを持たないスタイルで壁を駆け上がり優勝を勝ち取った藏敷選手。この年代の男子選手は層も厚く国際的に活躍する選手も多い中、自由な発想と独自のスタイルを活かして今後の活躍が期待される。



永嶋美智華

国際大会をはじめとした多くの大会で実績を残し昨年に続く連覇を安定したクライミングで達成した永嶋選手。14回を重ねた本大会の中でも女子の2連覇は2人目の快挙となった。3年生となる15回大会では女子史上初となる3連覇に挑戦となる。

競技者として登りごたえがあり、観客も魅了するルートセット、見事な大会であったと思います。

最後に大会開催にご尽力いただいた加須市、加須市山岳連盟、埼玉県、埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、協賛企業、日本山岳・スポーツクライミング協会の皆さまに厚くお礼申し上げますとともに今後も高校生の大会として大会が続くよう協力をお願いいたします。

■ルートセッター 尾形和俊

今年はチーフルートセッターに木村、ルートセッターに濱田、堀、波田、尾形の5名で、大会4日前からセットを実施した。

この大会では恒例となりつつあり準決勝はなく、男子104名、女子90名の予選から26名が決勝に進出となるため、予選では2本のルートのタイプが異なり、どちらかのルートで良い順位が取れるチャンスがあるように考慮し、ワールドカップや世界ユースでも活躍している選手も多数出場しており、予選からハイレベルでハードなルートのセットとなった。

今回も、たくさんのホールドを協賛して頂いており、



個人表彰

本大会では1、2年生を中心とした若い選手の活躍が目立った。少子化が進むなかで競技人口の底上げはJMSCAとして重点的に取り組むべき課題であるが、高校生をはじめとしたユース大会や小中学生の大会を協会として盛り上げ、競技レベルの向上に引き続き取り組んでいくことが重要だと感じた。

決勝ではすべての会社のホールドを使用しました。

このようにたくさんの協賛を頂くことで大会は運営されており、我々セッターとしては協賛して頂いた会社へ還元できるよう、協賛ホールドを多くの人に目にでももらえるようにしていきたい。

男子決勝

向かって右側のルートで、この大会目玉の壁渡りがある。序盤は不安定な動きから蛇行しながらダイナミックな動きがあり、中間部に入ってからでもダラダラせず動き自体はスピーディーに、強傾斜からは一気にパワフルな内容となっており、持久力と体幹が必要とされるルート。

女子決勝

こちらは向かって左側で、男子同様に壁渡りがある。全体として手数が多く、序盤から渡りまでも時間をかけられず、中間部では不安定な動きでリズムを崩され、強傾斜に入ってからダイナミックな動きから、一手一手のホールドが小さくなり、指先の力が試されしっかり

男子						
順位	BIB	氏名	所属	学年	高度	予選
1	M050	藏敷 慎人	大阪府・箕面自由学園高等学校	2年	38+	2
2	M036	和田 樹怜	高知県・県立高知道手前高等学校	2年	36+	1
3	M103	通谷 律	佐賀県・県立多久高等学校	2年	36	3
4	M009	猪鼻 碧人	埼玉県・聖望学園高等学校	3年	34+	5
5	M027	佐々木 玲偉	福島県・福島成蹊高等学校	1年	34	4
6	M045	今井 遙音	愛知県・県立緑丘高等学校	3年	33+	6
7	M028	藤田 楓	鳥取県・鳥取城北高等学校	1年	33+	11
8	M076	西尾 洸音	大阪府・大商学園高等学校	1年	33+	26

女子						
順位	BIB	氏名	所属	学年	高度	予選
1	W026	永嶋 美智華	静岡県・県立静岡西高等学校	2年	41+	2
2	W020	小田 菜摘	大阪府・府立東百舌鳥高等学校	1年	41	1
3	W017	山 真奈実	三重県・鈴鹿高等学校	1年	39+	13
4	W091	妻嶋 心路	山口県・県立防府西高等学校	3年	38+	9
5	W073	萩原 香月	千葉県・県立船橋東高等学校	2年	38+	20
6	W003	小田 穂香	大阪府・府立東百舌鳥高等学校	3年	38	15
7	W021	竹内 亜衣	千葉県・千葉市立千葉高等学校	3年	37+	6
8	W069	抜井 美緒	奈良県・県立香芝高等学校	2年	37	12

と引ききれないといけないルート。

大会に参加された選手、保護者、引率の方々、大会運営に携われた大会関係者、役員、中継、審判、ビレイヤーの方々、お疲れ様でした。

ホールドを協賛いただいた会社様、ありがとうございました。



成田 啓 鈴木雄大 記

令和4年度JMSCA海外登山奨励金(後期)登山隊報告

2023ペルーアウサンガテ遠征 概要報告 連載②

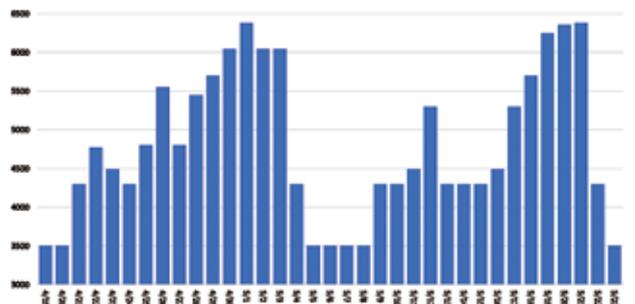
遠征期間 : 2023/4/18-6/10
 山 域 : ペルー クスコ地方 ビルカノタ山群
 メンバー : 鈴木雄大 (au FG、稲門山岳会、札幌北稜クラブ所属/28)
 成田 啓 (北大山の会所属/26)
 ルート : アウサンガテ北壁初登攀「Japonés Directo」
 (ハポネス ディレクト)。
 1100m - 5.10a, WI6 (同時登攀も入れて36p分)

●高所順応について

- 富士山で1泊、ペルー入国15日間で6000m前半まで順応行程完了。アクセスも準備も楽で、これまでのヒマラヤと比べ圧倒的にスムーズに順応することができた。
- 4/25 : 4800mのノーマルルートBC到着。設営場所を探すために25kg程度の重荷を持つと、数分でも目眩がするほど辛い。
- 4/25～5/3 : 南面にて順応。天気良く、日程も余っ

ていたので6050mに3泊もでき、心理的にもアドバンテージを得ることができた。

- 5/17～21 : 北壁アタック。5700mあたりまでは、少し息が上がる程度。その後は順応後とはいえ、激しく息が上がり、たまに頭痛を感じる。6000m以上では食欲が著しく減る。(米60g/食で充分)
- 今回の山域では、標高3500mのクスコに気軽に帰って快適な完全レストをできる点は有利に働いた。



(記 : 鈴木)

●北壁登攀概要

【5/17 : 1日目】晴 4,500mアズルコチャ (2:30) → 5,300m北壁基部の洞窟 (6:00) = C 1 (獲得標高800m)

夜間に出発し、偵察通りに氷河を突破し北壁基部へ。基部を少し歩きまわって壁を改めて観察し、登攀ラインを最終決定する。7時には壁に日が当たりあちこちで雪崩が降り始める。落下物から守られた完璧な洞窟テンパで昼過ぎに食事をとり、夕方前に就寝。

【5/18：2日目】晴 C 1 (0:00) → 5,700m ルーフ下 (11:00) = C 2

(獲得標高400m 7ピッチ+計5ピッチ分の同時登攀)

22時に起き、0時に出発。気温が高く、氷が融けだして水飛沫の上がるクーロワールを登る。

1p目：成田リード、85度の氷雪壁をシャワークライミング～緩いクーロワール。60m、WI 4+。

2p目：鈴木リード、緩い氷雪壁～垂直のチムニー状氷。60m、WI 4+。

このピッチでリードの核心突破後に2人とも雪崩まがいのスノーシャワーを浴びる。敗退も頭をよぎるが、落下物のリスクの少ないクーロワール左の岩壁に可能性を懸け、進むことにする。

3p目：成田リード、雪壁～ハンドからフィストのコーナークラック～ピナクルを掴んでトラバースして雪のクーロワールへ。40m、5.10 a。

その後は右へトラバースして傾斜の落ちたクーロワール本流へ復帰。隔時登攀と同時登攀を織り交ぜてできるだけ安全そうな左端の岩陰や小リッジ状の氷雪壁にルートを探り進む。昼前には落下物がさらに増えてきたので、奇跡的に見つけた岩のルーフ下の小テラスを整地してビバーク。テントを張ってギリギリ2人横になれるスペースで回復できた。

【5/19：3日目】晴 C 2 (3:00) → 6,000m 氷瀑下 (6:00) → 6,250m リッジ上 (14:30) = C 3

(獲得標高550m 2ピッチ+計14ピッチ分の同時登攀)

暗いうちに出発。鈴木リードで標高差250m、7ピッチ分くらいを途中でナノトラクション等も使用しながらの同時登攀。長大な1ピッチで上部氷瀑の下まで。上部氷瀑はベースからの偵察でも明瞭な核心部だと認識していた。

1p目：成田リード、10m程度の垂直氷を3つ登って小レッジまで。氷は硬く、見た目以上に厳しい。50m、WI 5。

2p目：鈴木リード、15mの薄被り氷～10mの薄被り氷～緩いクーロワール状氷を15mで氷瀑を抜ける。核心。40m、WI 6。

氷瀑落ち口の上には60度程度の氷雪壁と三段のセラックが控えており、急いで同時登攀でセラックをかわすように登った。セラック帯を抜け、北東稜上部の雪壁に合流。昼になり気温が上がると雪壁がズボズボになりラッセルが酷くなったので、これ以上進むよりも翌朝締



左：上部氷壁2ピッチ目の核心を登る鈴木。/ 右：上部雪壁の拷問パート。写真＝成田啓

まった雪を登る方が効率的だと判断して雪壁と氷を削って泊まった。持参した黒ビニール袋に雪を詰めて敷いてスペースを拡張したこともあり、2人とも横になれ快適だった。

【5/20：4日目】晴→ガス C 3 (5:30) → 6,360m 山頂直下 (10:30) = C 4

(獲得標高110m 1ピッチ+1ピッチ懸垂下降+計7ピッチ分の同時登攀)

3ピッチ分の同時登攀で小ピークへ到着。やはり朝は埋まらずに楽だ。そこから1ピッチ40m程、成田リードでリッジを進むが岩塔に行く手を阻まれる。スノーバーを埋めて1ピッチ50mの懸垂で東面の雪壁に降りる。そこから鈴木が同時登攀で4ピッチ分程伸ばす。頂上直下のプラトードでガスに包まれホワイトアウト寸前になったのでスープを飲んで時間待ち。しかし一向にガスは晴れず、昇温でラッセルが酷くなっていることも鑑みてここで泊まることに。今日山頂を越えるつもりだったのにお預けを食らい、意気消沈。寒さと頭痛、気怠さもありつらかった。しかし平らな所で泊まれたので気は楽で助かった。

【5/21；日目】晴 C 4 (5:15) → 6,384m アウサンガテ山頂 (5:30-5:40) → 5,450m ノーマルルートMC (10:00) → 4,300m 下山 (14:30)

(獲得標高24m 1ピッチ)

出発から15分で山頂。周辺の山が全て見渡せて報われた。風が強く寒いのでほどほどに景色を堪能してノーマルルートの下山に取りかかる。頂上稜線を2ピッチのクライムダウン、クレバス帯の処理、氷雪壁の3ピッチの懸垂、最後の氷河の下降をこなし安全地帯のモレーンキャンプへ。順応でノーマルルートの様子を完全に把握していたのでスムーズだったが、初見だとこも苦労しただろう。ここからまさかの順応時よりも増えた雪にズボズボはまりながら下り、久々の草原に到着。放牧されたアルパカの群れを脇目に、凶暴な放牧犬に怯えながら歩いて村にたどり着いた。

通りかかった小さなバイクに荷物とともに無理矢理乗り込み、必死にしがみつき振り返る余裕もないままアウサンガテを後にした。バイクとバスとタクシーを乗り継ぎ、パクチャンタ村に帰着したのは深夜1時だった。温泉に浸かりながら、お互い無言で今回の登攀をかみしめる。宿の快適なベッドでひと眠りして、翌朝のビールが格別の味だったのは言うまでもない。 (記：成田)

京都府山岳連盟のSDGsな活動

我々ヤマヤにとって「SDGsな活動とは何か？」を考えると、その17の目標のうち主に15番目の陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進など「陸の豊かさを守ろう」へのアプローチになります。これを私なりに考えたならば、「なんだそんなことはヤマヤとして昔からみんな考えたりやったりしてる事じゃないか！」と気がついたのです。京都府山岳連盟の場合も、過去から解き明かすことがすなわち長年のSDGsな活動の一部をなす諸活動を紐解くことになることになるのではないかと思います。簡単に振り返ることで、この度の報告に変えたいと思います。

京都府には創立100年を超える団体がいくつかあります。登山ブームも何波かありましたが、府下の山岳系の諸団体も最新の大きな登山ブームの中にあります。その登山界に身を置く私たちが今までそして現代においていったいどれくらいどのような社会的な役割を果たし、かつどのようなSDGsな活動をしてきたかを検分することは大切だと思います。

私たちの山岳連盟は1948年(昭和23年)に発足しました。1956年のマナスル初登頂による第一次登山ブームが始まる前の1950年には既に参加団体ごとに京都府下の山域の清掃活動を開始しました。

京都は観光都市です。そして低山ではあっても、京都盆地の周りに東山・北山・西山があります。その周囲には折り重なるように山域が広がっています。あの有名なヤマヤの歌「雪山賛歌」も京都北山をベースにする人たちによって生まれました。特に主要な観光地は京都盆地内に集中しており、その関係で京都府は地元の登山者ばかりでなく、他府県からの登山者・ハイカーも沢山受け入れてきました。観光客気分で山域に入る登山者・ハイカーたちが残したゴミ類や排せつ物などが登山コース

やそれに付随する人家周辺などで大きな問題となっていたことが、早くからヤマヤの中に問題意識として芽生えていたと思います。

1950年頃から登山道周辺を中心とした清掃活動が始まった事実からその当時のゴミの散乱した様子のが想像できます。高度経済成長の中での物の氾濫にもその原因があったと思います。そんな中で、ついに京都府山連盟にも「自然保護委員会」が1967年(昭和42年)に発足します。その後、数少ないロッククライミングの岩場で心無いクライマーたちの現場の汚染行為により山主からゲレンデへの立入が禁止となります。その後努力の末に京都府山岳連盟はそのゲレンデの清掃活動を条件に山主に入山許可を得ました。自然にあこがれて山に入って、その自然を自分たちが自ら汚すという自己矛盾になぜ長く気が付かなかったのでしょうか？

1972年に例の尾瀬でのゴミ持ち帰り運動が広がり、同時に国は世界環境デーを採択します。当連盟は京都府とともに環境月間・環境週間の活動として、特に山の清掃活動を推進する一機関としての委託事業も改めて開始します。京都の場合は、観光との兼ね合いもあり、ごみの一掃は官民あわせての大きな課題でした。活動上での深刻な限界を知り抜いていた先輩たちの思いを継承し、自ら山域を清掃する活動はもちろんのこと、府民や市民の環境問題意識の喚起こそが私たちの大きな使命でもあるとの深い思いからの取り組みでした。

その後、京都市は京都府山岳連盟とともに長い苦勞の末ついに京都盆地を取りまく山並みに「京都一周トレイルコース」を作りますが、このコースを訪れる観光客やハイカーが多くなるにつれゴミの散乱がかなり見受けられるようになりました。この状況に対し、その後、いろいろな条例の制定を重ねていき主に山域とその周



平成29年(2017年)自然観察会の記念写真



平成30年(2018年)清掃登山大会活動風景

辺での浄化に大きな効果が出て、今の京都の街中ではタバコの吸い殻一つありません。盆地を取りまく山域にもほとんどゴミは見つからなくなりました。

京都を取りまくトレイルコースの整備(登山道整備はもちろん)や見回りは当連盟の「京都トレイル委員会」が受け持ち、そのコースを中心に清掃活動は「自然保護委員会」が行っています。自然保護委員会が年数回実施する「自然観察会」も自然保護意識の高揚に貢献していると思います。その成果もあって、京都市民の個人が登山道(キララ坂)を長期間にわたって清掃活動をしていることが京都新聞の記事で紹介されて話題になりました。そのおかげで、3年間のコロナ受難のブランクを乗り越えて、2023年は所属37団体による計600名近くの会員が「京都府下一斉清掃登山大会」に参加しました。一般参加者もコロナ禍明けの2023年は少数でしたがありました。自然保護は言うに及ばず地球環境の保護・保全意識の高まりをも表しているものです。

京都府・京都市は、以上のように高度成長期を含む70年前のゴミの散乱する悲惨な状況からゴミ一つ落ちていない現在の状況に至るまでの市民や府民による長い長い努力の活動歴を持っています。これらの継続的な活動がその結果として、「陸を守る」というSDGsの一つ



府下一斉清掃登山大会50周年記念誌
(2019年2月発行)

の目標の実践ではないかと思えます。まさに「継続は力なり」です。

会員の高齢化による連盟脱退や若い新役員へのバトンタッチなど課題は山積みですが、以上述べてきた先輩たちの自然環境問題取り組みへの先進的・継続的な努力を無駄にしないように当連盟は強い意識をもって頑張っています。

(一社)京都府山岳連盟 理事 前自然保護委員長 山本憲彦

JMSCA

令和5年度臨時総会報告

○日 時：令和5年11月26日(日)
10:00～17:45

○場 所：JSOSビル3階第一会議室と
Webのハイブリッド会議

1. 開 会

会議成立状況(定款第18条)

正会員数74名 定足数過半数 38名以上
開会時、正会員=61名出席(対面本人出席22名、オンライン33名、委任状6名)上記にて会議は成立した。

2. 出席者 ※印は対面、他はオンライン
丸誠一郎会長^{*}、蛭田伸一^{*}、飛松好子^{*}、吉田春彦^{*}、山本讓の各副会長、小野寺齊専務理事^{*}、古賀英年^{*}、町田幸男^{*}、濱田豪^{*}、赤尾浩一^{*}、望月啓治^{*}、栗田季慎子、安井博志の各常務理事 以上13名。小高令子^{*}、野村善弥^{*}、畑中涉^{*}、前田善彦^{*}、山口純子^{*}、小田部拓、小日向徹、佐藤建、杉本怜、中島隆之、中橋沙羅、西谷善子、平田伸也、水村信二の各理事 以上14名。古屋寿隆^{*}、佐久間務^{*}の各監事 以上2名。石井昭彦(北海道)、服部一雄(青森)、吉田春彦(岩手)(役員)^{*}、村上美智子(宮城)、大滝潤二(山形)、平子吉政(福島)、西内博(茨城)、桑川章(栃木)、加藤富之(埼玉)^{*}、蛭田伸一(千葉)(役員)^{*}、

廣川健太郎(東京)^{*}、水島彰治(神奈川)^{*}、小宮山稔(山梨)^{*}、杉田浩康(長野)、中西紀夫(富山)、山本利幸(福井)、木ノ内高嘉(静岡)、伊藤智彦(愛知)、加藤正之(三重)^{*}、小木曾昭文(岐阜)、澤山恵(滋賀)、湯浅誠二(京都)^{*}、小畑和人(大阪)、古賀英年(兵庫)(役員)^{*}、藤本直民(奈良)^{*}、山口進(和歌山)、小坂秀己(鳥取)、松本実(島根)、石原敬士(岡山)、山田雅昭(広島)、古林喜明(山口)、木村康男(香川)、原秀樹(徳島)、峯本典寛(愛媛)、刈谷範光(高知)、寺崎良夫(福岡)、宮原敏明(佐賀)、古川好幸(長崎)、西本安幸(熊本)、原勇人(大分)^{*}、細川浩(沖縄)、松尾浩志(高体連) 以上39名
委任 齊藤喜代志(秋田)、吉田直人(群馬)、稲田春男(新潟)、松崎保忠(宮崎)、永谷常和(鹿児島)、新耕一(石川)各正会員、島田邦昭、樋口義朗各理事 以上8名

3. 同席者

顧問：田中文男^{*}、本木總子^{*}、神崎忠男^{*}、城隴嗣^{*}。参与：内藤順造^{*}(赤字検証委員会委員長)。顧問弁護士：萩原崇宏^{*}。委員長：百瀬恭平^{*}、服巻辰則、岩崎洋、西原斗司男、角田元、恒石直和、松本光顕の各委員長。オブザーバー：松本敏(都岳連)、村井仁(広島岳連)、竹内陸(博報堂DY)、今井浩二(新潟代理)、長谷川千秋(石川代理)

4. 欠席者

欠席委員長：谷口浩平、青山千影、山本和幸、宮澤克明、稲村彰映、樋口拓哉、藤枝理枝

5. 会長挨拶

前回の総会でお知らせした令和4年度決算の損失について赤字検証委員会の報告内容をお知らせするとともに、皆様からのご意見をうかがいたと思います。

6. 議長選出

定款第16条にさだめるところにより、丸会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を前述1のように確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として、濱田豪常務理事、水島彰治正会員(神奈川)について決議し、賛成49名(会場19名+オンライン30名)で、過半数を超えているので承認された。

7. 議 案

議長が、本日の議案第1号から第5号の議案で、第3号については決議を取る旨の説明をした。

議案第1号 赤字検証委員会の報告

赤字検証委員会委員長の内藤参与が、配布資料を基に説明した。(その後、内容について質問がでたが、以下の議案第2号の説明の後に質疑応答としてまとめてある。)

議案第2号 提言に対する対応について

各担当理事が配布資料を基に対応案を説明した。

1. 予算執行に関する運用規律の徹底遵守を図る。

登山部：スキーモ以外の登山部の事業については、予算管理規程、運用規律に基づいて

予算通り行なわれている。

スキーモ委員会について、まだ組織自体が十分機能していない。

強化費自体が、スポーツライミング(以下SC)とスキーモにわかれているが、特に新しい事業について管理が十分でなかった。期初にJOCに対して大まかな事業計画を提出している(日程は大枠で変更の可能性あり)。実施直前に詳細計画の提出が必要だったが、提出していなかった。

SC部：以下の4項目を実施していきたい。

a. 風土改革、管理規程の見直し、決まり事を守ることの徹底を図る部内外コミュニケーションを密にする。

b. 2024年度予算計画を12月に策定予定。

c. 予算執行についてはJOC/JSCの確定返答が来た時点で補正予算を策定。

d. 事業報告時に収支報告を行い、赤字が発生したときには、残りの事業内容と予算を見直す。

2. 重大な規律違反の疑義ある対象者の責任に対しての調査について

監事が顧問弁護士のアドバイスを受けながら追加調査等をおこない、責任追及の要否、法的責任の追及の方法等を顧問弁護士の助言を得て検討、理事会に報告する。報告は非常に重いものであり、理事会はその報告をきちんと尊重して意思決定できると考えているが、理事会での決定がむずかしければ、臨時総会などで判断いただくことも検討する。いずれにせよ、顧問弁護士とも相談しながら行っていくことになると思う。

3. 常務理事会、理事会の機能強化について

いつも13時開始の常務理事会を12:30から始める。定例で審議できない場合には、臨時常務理事会等を行う。

b. 事業報告を完了後1か月をめどに行う。

c. 予算内ならば報告のみとし、予算を超えた場合には、今後の方針を含め審議する。

d. 理事から議事の提案をしてもらう。

e. 最新の財務状況の共有を常務理事が参加する財務委員会でおこなう。従来は、競技の会計報告自体が出ていなかった。事業の会計報告が間違いなければ、正しく判断できると考える。

4. 理事に対する再教育の実施について

これまで理事の責任に関する教育については、理事監事就任時や今年の初めにも行ってきた。一般的な事例を挙げて具体的に実感を持って受け止めてもらえる内容を検討している。これまでの内容で効果が不十分ということであれば、例えば顧問の先生など別の方に研修をお願いするといったことも検討する必要があると考えている。

5. あらゆる収入調達手段の実行

配布済資料(P17-P20)を基に説明し、JMSCAフレンドの状況、及びクラウドファンディングを来年の2月から紹介する旨の説明をした。

6. 事務局、管理会計の強化について

配布済資料(P14)を基に説明した。

経理の専門家を事務局に入れたが、個人の都合と、希望する待遇との差があり、退職した。来年も事務局員の退職が予定されているので、新規事務局員の採用手配を始めた。また、将来に向けての対応で、管理会計システムの評価(含む既存システム)と拡張を検討したい。

議案第1号、議案第2号の報告に関連して

以下の質疑応答があった。

(過去から現在に至る財務状況について)

質問 2019年以降の財務状況を説明してほしい。前SC競技委員会委員長を競技委員長、常務理事にしたことが問題ではないか。法人管理会計旅費交通費が予算を大幅に超えた経緯は何か。

回答 予算数値自体の計上(100万円)が適切かどうかということと、旅費規程はあるが、守られなかった。予算書の書き方の問題もある。執行の段階で旅費規程に基づいていなかったのではないかと。

質問 旅費の予算の枠を意識していたか。会長の責任の問題があるのではないかと。

回答 わかる範囲で、専務理事に旅費概算を示したうえで、旅費規程の範囲内で執行していた。出張規程を無視していたわけではない。海外出張は、事前の了解を得たうえで執行していた。当件については、報告書で指摘済み。会長、専務理事、常務理事会の責任は重い。監事が中心になって、法的責任、民事責任の対象になるかどうか、総会が終了後、今後の進め方を弁護士と打合せする予定である。次の機会に総会等で報告したい。

(理事、業務執行理事の責任について)

質問 赤字を作り出した責任理事、関係者への責任追及についてはどうなっているのか。理事が自分事として、当事者意識を持つために、1人100万円を払うというような案を前回提案したが、その後どうなったか聞いていない。各理事によって状況が異なるので、一律にはできないということも理解できるが、見逃してしまった責任もある。

回答 理事としてどう責任をとるのか、最終的な法的責任はどうなるのか、結論まで長くかかることが予想されるが、監事が中心になって、顧問弁護士の助言を受けながら、法的責任の要件を確認、検討していく予定。理事会、総会で随時報告していきたい。いつまでに行うということと言えないものもあるが、早急に対応していきたい。後ほど提案する基金創設と同時に、責任問題の議論は開始している。責任問題の結論を待っていると時期を逸してしまうので議案第3号(基金設置と定款変更)を提案させていただきたい。基金の創設については、理事から500万-1500万円の協力を得る前提。責任の取り方として、お金より労働の方が価値があるのではないかとと思う。

質問 今年度行った八王子BWCの収支計算結果や、上半期実績等の数値が不明。現状数値を明確にしていだかないと判断ができない。

回答 後ほど第4号議案で、現状の財務状況等の説明をしたい。

(理事会の在り方について)

質問 各理事の考えを聞きたい、会長の意向も聞きたい。

質問 常務理事会のメンバーは、再建に対してどのように考えているのか。

回答 今までもきちんと協議できているわけではない。正しい情報がないまま、理事会で審議している。現在の理事会では、本質的な情報がないままに理事会が判断している。(例：①業務委託契約：8月に理事が分からないまま理事会が追認、②ボルダリングジャパンの開催地について：駒沢でやらないと違約金が発生するという情報

と、博報堂DYからの情報と異なってる。)理事会で正しい情報がなく、物事の本質をつかまないうまま、協議決定しているように思う。

*財務状況については、本年度末には、債務超過となる見込。今、JMSCAの財政状況は岐路に立っている。来年大幅に事業縮小しなければならない。

*6月総会以降、8月に皆(理事)で負担せざるを得ないのではないかと提言し会長からその考えはないとの返答だったが、その後、考えが変わったようだ。その経緯を含め会長の真意を聞きたい。

*回答時に、事前に用意した紙を読まれているのでは、真意がわからない。

回答 回答時に見ている内容は自分自身で作成したものであり、嘘偽りがあるのではない。

質問 JOCからの補助金減について

回答 事務局の説明では、一方的に削減されたとのことだったが、事実は、事務局と強化委員会内外のコミュニケーション不足に起因するものであった。

質問 近畿岳連からの提案で、組織運営を含め、代表理事の責任を取り退任してはどうか

回答 代表理事として対応、再建のための責任は感じている。一部の理事から、不信感を感じているとの声もきいているが、再建のためのご理解とご協力をお願いしたい。責任をうやむやにしたままにするつもりはない。

意見 今までのやりとりについて、感想を述べさせていただきたい。近畿からの提案と質問に対して会長が説明したが、納得がいかない。

質問 財務委員長から今年度末は債務超過の予想とのことだが、債務超過になったらどうなるか。

回答 内閣府からの指導対象となり、財務内容改善対策を提示、報告するとともに、改善結果を出すまで監視される。改善できなかったら、最終的に法人の解散につながることもある。

(個々の発生事案について)

質問 関東ブロックでの話し合いでは、理事会で正しい情報が伝わっていないという指摘があった。また、競技の場所を変更したら、違約金が発生するといった間違った情報もあったようだが真相はどうか。業務委託契約については、利益相反の可能性を含め、契約審査会として責任もあるのではないかと。

回答 今年5月に締結しているが、理事会では、8月に追認されている。当業務委託契約の効果があったかどうかは、年度の競技が終了した来年3月に判明する。

質問 BJCの競技場所についての理事会での経緯について

回答 競技をやめたり、場所を変えると約3000万円の違約金が発生するのではないかとあったことが、SC部長が博報堂DYに確認したところでは、場所を変えても違約金は発生しないとのことだった。(今後の財政再建について)

質問 現行のJMSCA体制を一度リセットして、出直した方がよいのではないかとという案や、中長期の財政改善計画のため、再建委員会を設立したらどうかという案が出

ている。
回答 常務理事会で中長期計画の立案と実施について、今回提示されてきた質問、案について真摯に検討対応する。現体制を信頼していただきたい。財政状況の改善については、財務委員会が中心になって、引き続き改善に向けて対応していきたい。

質問 予算管理は変わっていないのではないか。

回答 予算管理については大きく体制が変わり、運用規律等の遵守がされ、SCでの予算執行時に、運営、管理の責任者が問題点を再認識するようになっていて、改善している。しかし、協会としての統一感、一体感がなく、むしろ悪化している。正しい情報をしっかり伝えるという基本に立ち返っていただきたい。

(各岳連からの質問や、提案について)

質問 財政再建計画について、新規収益源を含めどのように考えているか。各岳連に情報がつたっていないという問題もある。また、加盟団体から退会を考えている会もある。

回答 最大限の努力をしている。蛭田副会長が、新規収益源の実施を担当している。各岳連とのコミュニケーションの改善も重要視し、今後対応していきたい。

質問 広島県からも、全岳連が資金供出する案が出ている。

回答 理事会として、対応を検討したい。

(SC関係の理事の考えについて)

質問 SC関係の理事の考え(気持ち)をうかがいたい。

回答
*JOCの補助金の確保をしていき改善を図っていく。選手が活躍して費用が掛かるようになっていく。予算を適正に管理して、選手に負担にならないよう考えていきたい。また、正確な情報を基に判断し、JMSCAは、複数競技を取り扱う団体ではあるが、新しい方法を模索していきたい。

*委員会で情報を共有している。選手が安心して競技できることが一番。選手をサポートしつつ大会を成功させようとして何をやっていったらよいかを考えていきたい。

*山の組織にお世話になっている、人材が一番大事。将来に向けて情報が伝わるように意識している。SCだけでなく登山を含めた活動もしている。47岳連の皆さんのご協力とご支援をいただき対応していきたい。

*競技については、正しい情報がない中、見込みの話をもとにしたため、正確な判断ができていなかった。国際競技は国内に比べ影響があるので、正しい判断をすべく、改善すべきところはできている。

*以前に比べて、少しずつ予算管理の精度があがってきていて正しい方向になっていると思う。今後も、会長と、SC部長を支えていきたい。

感想 何とかなる状況ではない。もう少し当事者意識をもってほしい。

意見 登山部からの提案が多く、スポーツクライミング部からの提案がなかなかできていないが、アスリートの方から少しでも支援できるように対応していきたい。

(山岳スキーの赤字について)

質問 山岳スキー競技が宇奈月で大会が行われた。前主管理事、及び岳連が中心になって予算管理した。きちんとできた、

認識していたが、400万円の赤字と報告されている。オリンピック競技に選ばれたことで強化補助金がでたが、予算執行管理が適切だったか疑問が残る。

回答 補正予算の提案を適切にしなかったが、大会自体の赤字は100万円で収まっている。

質問 300万円の差とのことだが、資料11と数値の差があり、この数値自体が正しいのか疑問が残る。令和4年度の収支結果が9,000万円の赤字があるとのことだが正しいのか。

回答 全体として9,000万円の赤字というのは正しい。個別の委員会毎の詳細は、別途確認しながら正しい数値であると認識している。スキーモ300万円の差について、別途調査し報告を行う。

(JMSCAフレンドの費用負担について)

質問 JMSCA費用負担は発生しないのか。
回答 システム開発を含め、2024年度まで全額JSC負担となる。しかし、その後の2025年度から、保守費用として、JMSCAの負担は10万円・毎月発生する。よって、2024年度までの3年間に自立、自走できるようにしていきたい。

(JMSCAの体制について)

質問 ビジネスプラットフォームの確立ができたとのことだが、何のことかの説明と、できればその指令塔を変えてほしい。

回答 JMSCA内部の体制の変更と、組織だった対応をできるようになったことをプラットフォームと説明した。

意見 予算設定とその執行、運営については、JMSCAの体制(理事会)にゆだねているので、しっかりやっていただきたい。

議案第3号 基金設置と定款の変更について

配布資料を基に、望月常務理事が基金設置の趣旨と、定款の変更部分について説明、濱田常務理事が補足説明した。今年度末決算見込みは、債務超過となることが予想される中で、基金自体は、負債ではなく、資産に計上され、正味財産に繰り入れできるメリットがある。また、借り入れで賄いきれない2,3月の支払い原資を作る必要があるため、その原資としても使用したい。その後、以下のような質疑応答があった。

質問 2019年にお金があったが、その2019年から2022年の財政状況の推移と赤字の理由、2023年の現在の状況はどうなっているか。岳連内でも説明が必要である。抜本的な対策を説明してほしい。

回答 画面から平成25年以下の収支状況とオリンピック後、収入が減っている状況と、依然、当時と同じような事業規模を継続していることを説明した。今やらなければならないことは、事業規模を縮小しなければならないことである。

質問 スポーツクライミングについて、見積書、仕様書などない中で、数千万円の事業を実施しているということ自体おかし。BJCの競技場所について、東京から佐賀になると、違約金が発生するという話が出た。この経緯は何か。

回答 駒沢以外の候補として、盛岡、西条、葛飾等の候補地の評価をし、金額的に、BJCを取りやめることも検討したが、その後、行政の協力等が得られることで、佐賀での開催が可能となったという経緯である。補足 駒沢で行くと違約金が発生するとい

うことを理事会で丸会長が説明したが、事実とは異なることを話したことが問題視されている。

質問 以上の説明について、丸会長はどう考えますか。

回答 駒沢を一度やめると、次年度以降の開催は、難しくなるという行政の一般的な受け止め方を話した。理事会を愚弄した、事実を話していないということではない。

質問 何故、スポーツクライミングの会場について、SC部長が提案すれば良いものを会長自ら行うのはどういうことか。競技委員長やSC部長に提案してもらえばよいのではないか。

回答 SC部長とは状況を共有している。佐賀県の場合には、知事から直接連絡があり対応した。

質問 SC部長が博報堂DYから事実を確認している。また、駒沢の場所を取りやめた場合に、その年以降開催がむずかしくなるといったことはない、事務局長が確認した。

回答 当内容は、総会というより理事会内での問題なので、この場では協議しないようにしたい。

その後、議長の協議の進め方に問題ありとし議長解任の動議があった。定款16号に基づいて、決議を取るようになった。

決議するうえで、出席者の確認が以下のように行われた。(総会開会後参加者が増えたため、開始時と人数が変わっている)

出席者数

会場：23名／オンライン：43名／委任状：8名／合計人数：74名

議長不信任の動議に対して採決がとられ、賛成の人数は以下ようになった。

賛成 会場：8名／オンライン：19名／委任状：2名／29名

不信任賛成が過半数(38名)を得られなかったため、否認され、丸会長の議長の継続となった。その後、議案第3号の採決の前に、財務状況の現状を明確にし、把握したいとの意見が出されたので、議案第4号の説明を先に行った。

議案第4号 令和5年度補正予算について

濱田財務委員会委員長が、財務として現状の評価指標(キャッシュフロー、事業費予算と実績、財務諸表)について説明した。

1. 予算執行状況について

予算管理表(支払い実績+執行済未払い)を毎月使用し監視している。登山部は、予算に対して32%の執行、SCについては、追加予算分はまだ反映していないが、81%の執行となっている。全体では、予算に対して68%の執行となっている。続いて、赤尾事務局長が説明した。

2. キャッシュフロー予測について

10月末時点の現金と、未払い金額、11-3月までの事業に伴う金額を計算し、来年、1月末までは対応可能だが、来年の2-3月で、6500万円が足りない見込み。4-5月で精算払いすれば、900万円が残るが、2月から、現金ショートが発生する。

3. 上半期決算について

貸借対照表：概算払いによる資産増、借入金増(8,000万円)により昨年より増
収支計算書：収入3億3300万円に対して、実支出2億9600万円なので、+3700万円の黒字となつてはいるが、協賛金を1年分

の収入としたこと、現金準備のために概算払いによる収入増が計上されているだけで、実質は2350万円の赤字。今後発生する競技会などを加味すると赤字体質は変わっていない。

4. 今後について、

事業縮小が課題となっている中で以下のようになっている。

*令和5年度補正予算：収入実績が減っているのに、支出を大幅に圧縮した（一約6,000万円）。最終収支は3,000万円弱の赤字、正味財産で吸収しきれず-2,000万円の債務超過となる。

*令和6年度の予算は以下を予定している。
一予算規模：4億4000万円の規模を前提としている。当数値は一番低い実績金額をベースとしている。

一SC競技については、1.9億から1.1億円に減額予算方針について

一SC競技8大会は実施、今年4月に行った八王子大会の分(6,600万円)はなくなるので、今年より支出の削減が可能と判断している。

*財務委員会として体制を強化するために以下のように増員した。

2022年まで：3名で運営 / 2023年6月：7名に増員 / 2023年11月：10名に増員

さらに、当委員会で予算内執行ができていくかどうかをモニターするようにした。

*執行何いの仕組みを6月から開始(100万円以上の事業)し、見積書確認、相見積もりを取ったかどうか併せてチェックを開始した。

(その他質疑応答)

質問 過去の収支データ(見積書、請求書等)についてはどうするのか。

回答 請求書、稟議書、振り込み証明書等の証憑書類は各年度の最後にはそろっている。

質問 誰が稟議書をおこなっているのか。

回答 事務局の会計担当が起票している。2019年の大規模赤字を受け運用規律が作成され、それが遵守されているべきところ遵守されていなかった。コンプライアンス違反の問題。重大な責任があるとの法的評価を受けた場合には法的責任追及の対象になるし、さらに、協会に損害を与えたということであれば、損害賠償責任追及の対象になるということになる。

質問 登山を主にして活動してきた団体なのに、遭難者が史上最多の中で、協会、岳連とも対応ができていない。身の丈に合った事業ができていない。

回答 コロナ以降、管理が緩くなっている。見積書の作成、評価等各委員会に任せていて、こちらから出ていき管理するような

ことはできていなかった。申し訳ございませんでした。

あらためて議案第3号に戻り、質疑応答がされた。

議案第3号 基金設置、定款変更について(懸念事項について)

質問 この基金で、更なる借入可能と判断されてしまうのは困る。また、今回のような赤字収支となった原因と対応はどうか。

回答 現状の借入は、来年5月に入金される1億2,000万円を担保にして借入しており、これ以上の借入枠を増やすことはできない。

質問 借入状況と、今後の協賛金入金予定はどうか。

回答 協賛金は来年5月の入金で最後(契約自体は、再来年の3月の年度まで)。JOC, JSCの補助金等は担保にしていない。

質問 基金を出すことはよいが、死亡、認知症になったときにはどうなるのか。

回答 後見人により、名義変更の手続き等、別途取り扱い規程を作成し、対応できるようにしたい。

意見 基金設立には賛成できるが、体制が変わることが前提と考えている。体制が変わらなければ賛成しない意向である。

意見 理事の方が、どう責任を取るのかの状況を見たらうで、基金に協力するかどうか判断する。

質問 基金の中身、運営、日程、返還手続きの具体的な手順はどうか。詳細情報がないと判断できない。

回答 今後、理事会で「基金取り扱い規程」、「事務処理手順規程」の制定を行い、12月下旬に伝達する、基金申込を受け、通知するのが1月末、払込が2月末という日程になるのではと予想する。

質問 6,500万円という目標はどのような経緯か、具体的な運営になるのか。

回答 基金募集方法等具体的なものは決まっていない。定款変更の承認を経て、実施にむけてのスタートラインに立たせていただきたい。今後、基金取扱規定、規模、期間等を理事会に提案し、承認を受けたのち、広報していきたい。

質問 まずは、正味財産を満たせるようにするのを目標にするといった方針を明確にしてはどうか。

質問 基金全体の内容が見えない中で、岳連内で話せない。制度設計するならば、詳細内容でも併せて提示してほしい。

回答 詳細手順、規程等は協議中で、お出しできるようなものはない。まずは、定款の変更についてご判断をいただきたい。

意見 基金の運営方法等中身を決めたら、臨

時総会か説明会等をしてもらわないと実施に移せない。

回答 詳細が決まった時点で、説明できるような体制をとれるようにしたい(臨時総会の設定を含めて)。

意見 定款変更を今決めるのではなく、もう少し慎重に協議してほしい。

回答 今総会の第3号議事ですので、採決を取らせてほしい。詳細は、常務理事会、理事会で協議して、示せるようにしたい。

その後、現出席者人数 70名(対面：22名+40名+8名)で、74名の2/3である50名が、可決のために必要であることを確認した。

第3号議案の採決を取ることになり、以下のとおり、合計：50名(定足数の2/3)が賛成となり、原案どおり承認可決となった。

賛成 対面会場：17名 / ズーム：27名 / 委任：6名 / 合計：50名

8. その他

*協賛金の状況について：お金をいただけるのは来年の4月で終わり。

スポンサー契約について 2025年度に向けての検討が必要

*クラウドファンディングについて、会長の写真及び挨拶を募集、収集の予定ですので、ご協力をお願いしたい。

*理事の責任について：監事主導とのことだが、理事会で進め方を協議するなど進めていただきたい。資金集めだけ先行しても弱いと思う。

*JMSCA内のコミュニケーション、情報の共有ができないと進んでいかない。

基金募集について、構成員の理解を得るには、説明内容の浸透を含め、まだまだ時間がかかることを理解してほしい。

顧問からの意見

*大阪の方では、月報等限られた情報しかなかったが、いろいろな情報を得ることができ有難うございます。何かを決めたのはよいが、それを守っているかどうか監視してほしい。

*JMSCAは、加盟団体にとって必要とされる団体でなければならない。加盟団体のために何ができるか、必要とされるために何をしたらよいか考え、基金を提供する人にメリットが提供できることを考えるようにしてください。

その他意見

*岳連内に説明がしきれない。JMSCAが変わろうとしていることはわかったが、人が変わらざるにきっちりできるのかという疑問がのこり、信頼しきれなかった。

以上をもって、オンライン会議システムは、終始異常なく、議事全部を終了した。

以上
令和5年11月26日 記録 赤尾 浩一

寄贈図書

兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第679号	会報	(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」Vol.154、「JSPOフェアプレー」Vol.154	会報
おいらく山岳会	「山行手帖」No.769/24.1、No.770/24.2	会報	(株)山と渓谷社	「山と渓谷」2024 2月号 No.1073	情報誌
株日本運動員新報社	「スポーツ産業新報」第2420号、第2422号	新聞	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.407	会報
特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.98	会報	(公財)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.301	会報
(公社)日本山岳会	「山」12月号 No.943、「山」1月号 No.944	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1127	会報
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.549	会報	日本山岳写真協会 JAPA	「日本山岳写真協会ニュース」1月号 第509号 / 創設30周年記念 第31回 山の断章 金沢展ご案内	会報
中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊 294	会報	COREAN ALPINE CLUB	「산(山)」2023年12月号 Vol.282号	会報
株山と渓谷社	「山の守人 富山県警察山岳警備隊」	寄贈本	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第370号	会報
(公財)日本スポーツ協会(JSPO)	「Sport Japan」vol.71	情報誌	加須市役所 加須市シティプロモーション課	「KAZO」No.167	会報
認定NPO法人 富士山測候所を活用する会	「芙蓉の新風」Vol.18のご送付	会報			
株式会社ネイチャアエンタープライズ	「岳人」2024February No.920	情報誌			

○日 時：令和5年12月26日(火)
14:05 - 16:55

○場 所：J S O Sビル3 F会議室9と
Webのハイブリッド会議

○出席者：丸会長、蛭田・飛松・吉田・
山本各副会長、小野寺専務理事、古賀・
赤尾・町田・望月・安井・栗田各常務理事、
佐藤・前田・野村・小高・小日向・水村・
山口・島田・畑中・樋口・中島・小田部
各理事 以上24名

古屋・佐久間各監事 以上2名

○欠 席：濱田常務理事、中橋・西谷・平田・
杉本各理事

○オブザーバー：亀山前副会長

○顧問弁護士：萩原弁護士

1. 開 会

2. 丸会長挨拶

3. 会議成立状況報告

理事数29名中24名出席(開会時)、監事
数2名中2名出席(定款第33条、定足数＝
15名(1/2超、決議は出席理事の過半数を
もって行う。)

4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注. 審議順に記載)

議案第1号 赤字検証委員会 善管注意義務の損害額確定について

萩原顧問弁護士が現状の説明をした。結
論が出るまでに、2月末までかかる見込み。

特に、損害額の算定に時間がかかっている。予算の立て方自体にも問題があり、損害額の算定に時間がかかる。2023年には、予算通りの運営がされているようだが、本来どうだったかという結果は、今年度の大会がすべて完了するまで待たなければならず、それまで待てないということで、今回、途中報告とさせていただいている。関係者に責任はあるが、その範囲や影響の検討も行っており、損害額の特定はできていない。旅費、交通費の予算との差については、損害額の算定は可能ではないかと思うが、今日の時点ではまだ損害額が算定できていない。

上記状況説明に対して以下の意見が出た。
質問：損害額が特定されないと加盟団体からすると、不満が残る。2月末に損害額の結果が出ても、基金を出していただけないと、運転資金が枯渇するので、何とか基金募集のための情報を開示ができないか。
回答：報告(損害額)をまとめる前に責任の有無を協議するのは適切ではない。

質問：2月の報告内容は何か、それまでに何が報告されるのか。

回答：善管注意義務の有無と、損害額。報告がまとまったら、理事会に説明するので、それまでの途中報告は特に考えていない。

質問：関係理事の違反は認められるが、法的責任の範囲と損害額が明確になっていないという理解でよいか。

回答：そういう理解でよい。

(役員賠償責任保険の適用の申請について)

損害賠償額は5億円まで。保険金の負担はJMSCA全体で合計28-29万円を支払い、理事一人3,000円の負担となっている。-保険申請は各個人が行う。保険会社に担当者が設置される。当保険を関係理事に紹介してもよいかどうかについて理事会の承認をいただきたい。

-2022年度の理事が申請対象。

今後、関係理事の法的追及を進める中で、保険の適用がスムーズになるように、当保険を紹介することについて賛否をとり、異議なく承認された(賛成23名反対、棄権ともにゼロ)。

議案第2号 山岳スキー事業の執行について

小田部理事、赤尾事務局長が、前理事会で未決だった事業(W/C、宇奈月、白馬)があること、および現状のキャッシュフロー(3月末で4,000万円の現金が不足)の説明をした。その後、以下の意見が出た。

*2月までの事業(W/C及び宇奈月日本選手権)は、資金の確保がされているので、承認してもよいと思うが、3月実施の事業は現時点では判断を先送りしたい(1月末か2月に)。

*大会の実施の判断は2月よりもっと前にしなければならない。

*補正予算内の事業全体について、3月実施予定の事業は、事業実施のための資金確保がされているわけではない。

*各事業の収支の妥当性は確認されている。また、資金が足りない場合には、選手が参加負担金を出す等、JMSCAの支出を抑える方法があるので承認してよいのではないかと。

*3月の事業で承認された分は、所要支出現金を個別に管理しなくてはならず、事務局の手間が増える。また、3月実施の他の事業(執行伺い未承認分)については執行が制限されることもありうる。

上記の意見の後、最終的に3事業とも執行することになった。

議案第3号 基金について

JMSCAへの信頼関係がない中で、基金にどれだけの金額が集まるのか危惧される。この状況を招いたのは、執行部の失政によるもの、前回、皆様にもお詫びしたが、執行部が、現職を退任することで、3月を乗り切るための基金成功に結びつくならば、スポンサーや行政等との関係を考えながら、理事会に判断を仰ぎたい。

基金を進める上で問題点に対する対応を望月常務理事が説明した。

1) 臨時総会で出された不明点(金額設定が不明確)の解消

2) どういう状況になったら返済されるのかの説明

3) 理事会として責任を認めて、岳連に話すること

特に、理事会として責任を取ること、理事が基金に協力をするというのを明言し、その上で、基金協力を岳連に依頼するということが必要。また、以下の意見も出た。

*2022年度理事の一員として責任がないとは言えない。それに応じた責任を取る(身銭を切る)ことはやむをえない。加盟団体との信頼関係を再構築することが必要である。

*2022年度の赤字問題は2021年度の人事からも始まっている。このような対象者を

念頭に基金募集してはどうか。

*3月の支払いについて4000万円が足りないという状況で、その4000万円を用意することが必要。

*小野寺専務理事から、各理事あて基金への協力と可能基金額のメールを流し打診すればよいのではないかと。

*3月以降も含めた返済計画と、何年かけて返済するのかを提示しないと、岳連からの協力を得られないのではないかと。

*基金募集要項として、基金の金額と設定時期、返還時期を明確にする。

*2021年度から2023年度の理事から具体的な協力を得、いくらになるのかをまとめる。

*基金を集めると同時に、その後の体制も提示することが必要である。半年、1年先の資金繰りを提示しなければならない。財政再建プロジェクトを設置しなければならない。

*併せて、資金繰り計画表の精度(収入と支出)を高める必要がある。

その後、2021+2022+2023年度の理事に対し、基金協力依頼メールを出し、理事による収集可能基金額を1月5日に集計という提案について採決を取り、以下のとおり賛成多数で可決した。

参加者16名に対して(7名退席)

賛成14名、反対1名(赤尾事務局長)、棄権1名(古賀常務理事)

7. その他

*JMSCAは、岳連からの協力を基礎にして成り立っていることを忘れてはならない。

*クラウドファンディング補足説明情報の配布について

説明用のPPTやFAQを作成しているが、間違った解釈をされている部分がある。岳連にとって、基金の話と混同されてきている等から、基金の依頼と、クラウドファンディングの説明は、別途行った方がよいとの結論になり、上記文書の送付はやめることとなった。これにより、正式アナウンスは後ろに大幅にずれる。

*常務理事会、理事会の改善については、時間切れで協議しなかった。

以上

令和5年12月26日記録

赤尾 浩一



かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

二子山(1,166m)は埼玉県秩父郡小鹿野町にある双耳峰で、名前の通り西岳、東岳からなります。県内には二つの二子山があり、秩父(小鹿野)二子山とも呼ばれています。もう一つは横瀬(芦ヶ久保)二子山(883m)。

秩父二子山は石灰岩質の岩峰で、周辺に複数ある岩壁は初級者から上級者まで楽しめるロッククライミングの人気スポットとしても知られています。写真は埼玉県山岳・スポーツクライミング協会が毎年作成しているカレンダーの2020年12月のページを飾った作品です。

(一社)埼玉県山岳・スポーツクライミング協会

編集後記

最近冬山での遭難ニュースをよく見かけます。JMSCA(日本山岳・スポーツクライミング協会)では1月19日から21日に群馬県で積雪期レスキュー講習会を開催しました。クラスは3つあり、クラス1は雪崩に関する基礎知識を学び、クラス2はビーコン操作及び掘り出し、クラス3は掘り出し後の対応を学びました。どのクラスも冬山に行く人にお勧めの内容です。他にもJMSCAでは色々な講習会を開催していますので、ホームページを確認してみてください。

<https://www.jma-sangaku.or.jp>

(松本光顕)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
北丹沢山岳センター内

URL: <https://trailrunning.or.jp/>

※現在、非常勤の為電話番号は非公開とさせていただきます

登山月報 第 659 号

定価 110円 (送料別)
予約年間 1,300円 (送料共)
(毎月1回15日発行)

発行日 令和6年2月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

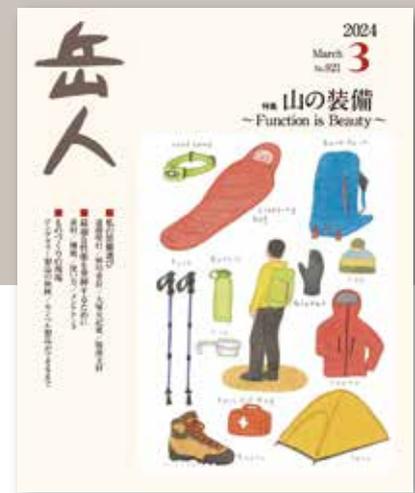
山と人、時代をつなぐ「岳人」

3月号
発売中

【特集】山の装備 ~ Function is Beauty ~

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには
モンベルポイント **5,000P**プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人コンパクト
フォーム
パッド

手軽に携行できる
軽量コンパクトな
パッドです。

限定
デザイン

岳人
カード

全国2,000ヶ所以上で
ご優待!

全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

